

神戸市(新長田地区)中心市街地活性化基本計画 (計画期間 20年7月～25年3月)

【中心市街地を巡る状況】

○神戸市は中部核(三宮・元町・神戸駅エリア・・・広域商業・業務拠点)、東部核(六甲、住吉エリア・・・学際交流都市)、西部核(新長田エリア・・・職住近接のまち)の三核が互いに連携、一体となって、150万人市民の生活を支えている。

○新長田中心市街地は阪神淡路大震災で、壊滅的な打撃を受け、職住近接のまちとしての機能が失われた。

○震災後、ストック回復を最優先課題に復興事業を推進し、ハード面ではほぼ回復しつつあるが、ソフト施策との連携が不足しており賑わいの回復には至っていない。



○事業所数

H8:2,504事業所→H16:1,791事業所(△29%)

○小売販売額

H6:436億円→H16:249億円(△43%)

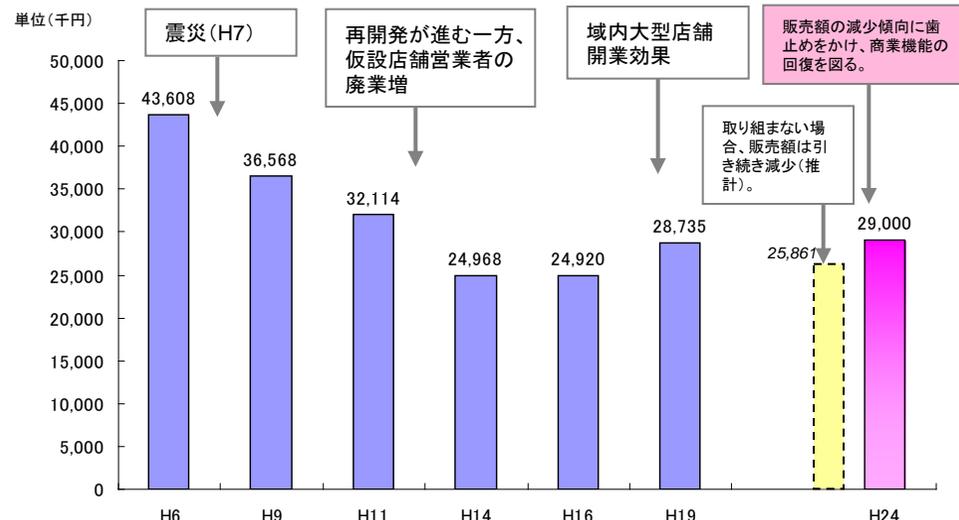
○歩行者通行量

H4 → H18 : 休日 △50%、平日△37%

【目標】

目標	指標	現況値	目標値 (H24)
ものづくりのまち・長田の再生	事業所数	1,608事業所 (H19)	約1,600事業所
賑わいのある商業空間づくり	年間小売販売額	約287億円 (H19)	約290億円
個性的な集客拠点づくり	休日の歩行者通行量	36,198人 (H18)	42,400人

(年間小売販売額と数値目標)



地域産業の育成による『職』機能の復活、再開発エリアを中心とした積極的な店舗誘致策、震災復興のシンボルとなる新たな集客拠点とソフト事業の連携による『住』機能の復活により、かつてのような職住近接のまちとして再生させる。

神戸市(新長田地区)中心市街地活性化基本計画の事業概要

職住近接の「ものづくり」のまち・長田の再生

○都市型ものづくり起業支援センターによるインキュベーションブース提供、専門家による技術支援・開業支援等により、職住近接型の事業所増加を図る。



インキュベーションブース(イメージ)

○TMOが一括管理・運営する「レンタル工房」を設置し、アニメ・ホビー・ロボット関連産業を誘致。



レンタル工房(イメージ)

○再開発ビル内(主に二階部分)を活用し、インキュベーションオフィスを整備。家賃補助を行い、情報関連ベンチャーを誘致。



インキュベーションオフィス(イメージ)

○低廉な家賃での仕事場提供、ライブホールでの映像機材等の使用等、活動・発表の場を提供し、人材育成を支援。



神戸映画資料館

回遊性の強化・個性的な集客拠点づくり

○鉄人モニュメント建設とあわせて公園整備を行い魅力的な集客拠点作りを行う。



↑鉄人モニュメント(イメージ)

○三国志ミュージアムを域内に整備。来街者を国道南側地へ誘導し、回遊性を高める。



←三国志ミュージアム(イメージ)

○まちづくり会社(神戸ながたTMO)が中心となって各種イベントを実施(年間約100回)。あらゆる世代が楽しめる魅力的な空間を創出する。



三国志まつり

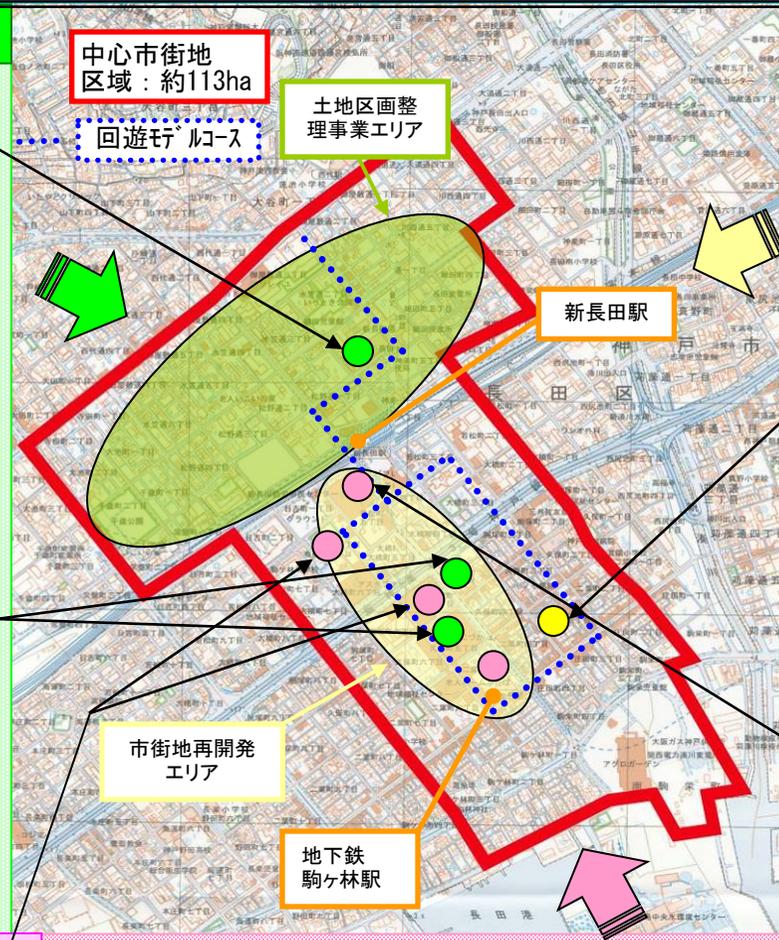


くつつ子祭り



琉球祭

←三国志ミュージアム(イメージ)



中心市街地
区域：約113ha

回遊性ルース

土地区画整理事業エリア

新長田

市街地再開発
エリア

地下鉄
駒ヶ林駅

賑わいのある商業空間づくり

○市の震災復興再開発事業を期間内に完了予定。賃料を最大70%減額する保留床入居促進事業を実施。エリア再開発ビル内ナントの競争力を強化。



○再開発エリア外の空き店舗に対する家賃補助・初期投資支援を実施。「食」を中心に、国際色豊かな長田の特長にあった店舗の集積を図る。



アジアごはん屋(パンフ)



制度活用店舗(丸五市場内)

○駅前の歩行者デッキ整備、アーケードの連結により商店街をモール化。天候の影響を受けずイベントや買い物が楽しめる空間を整備



歩行者デッキ(新長田駅前)

○テーマ別ガイドマップを市民が作成(約60箇所の店舗を網羅した粉もんマップなど)。まちなかに「情報ステーション」をつくり、回遊性を強化。



まち歩きマップ



粉もんmap

○商工会議所で「神戸長田ブランド」(食・化学・先端技術)を認定。地域ブランドづくりを推進。